

2017年（平成29年） 4月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/23～29のNYMEX・WTIは、一進一退を続けるなか、47.70～49.51ドルの範囲で50ドルを窺いつつ推移した。

3月30日は、クウェートのマルズーキ石油相の協調減産延長支持発言、ノバク露エネルギー相の3月ロシア産油量の20万バレル減、4月末30万バレル減産達成見込み発言、リビア西部の油田封鎖継続の報道等を背景に、需給均衡への期待感から、3日続伸し、3週間振りに50ドル台を回復した。5月限の終値は前日比0.84ドル高の50.35ドルだった。

週末31日は、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が662基（前週比10基増）と11週連続の増加となったものの、期末絡みの持ち高調整等の買い等が広がり、4日続伸した。5月限の終値は前日比0.25ドル高の50.60ドルだった。

週明け4月3日は、リビア最大のシャララ油田操業再開報道やIEAピロル事務局長の原油価格の大幅上昇は予想できないとの発言、週末までの価格上昇に伴う利益確定売り等が重なり、5営業日振りに反落した。5月限の終値は前日比0.36ドル安の50.24ドルだった。

4日は、この日夕刻と明日に予定される米国官民の原油・製品の在庫週報の減少予想、夏のドライブシーズンに向けた需要回復の期待等から反発し、約1カ月振りの高値を付けた。5月限の終値は前日比0.79ドル高の51.03ドルとなった。

5日は、北海油田の生産が一部で停止したとの報道で強含んだが、米国エネルギー情報局(EIA)発表の米国原油在庫が事前予想に反し増加したことから小幅な上昇にとどまった。5月限の終値は0.12ドル高の51.15ドルだった。

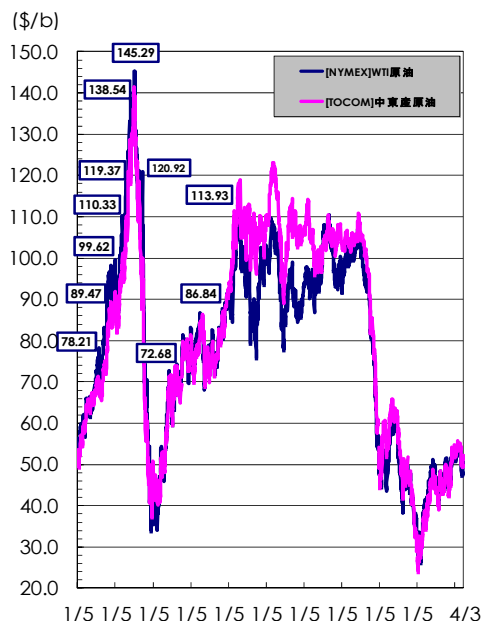
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週48.70～49.70ドルと、50ドルをにらんで推移した。3月30日は50.70ドル、31日は51.00ドル、4月3日は51.90ドル、4日は51.10ドル、5日は52.60ドルで推移した。

為替は、前週110.44～111.48円の範囲でやや円高に推移した。3月30日は111.37円、31日は112.19円、4月3日は111.27円、4日は110.60円、5日は110.77円で推移した。

主要元売会社の4月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1円の値下げから1.0円の値上げに分れた。原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれを一部相殺したが、原油調達コストは値上がりした。元売の大半は、卸価格を据え置いた。

そのような中で、4月3日時点の小売価格は、ガソリンが横ばいの133.9円、軽油も横ばいの112.3円、灯油は0.2円値下がり77.9円だった。ガソリンは6週振りに値上がり止まり、軽油も6週振りに値上がり止まった。灯油は2週振りの値下がりだった。この週(4月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は据え置きから2.0円の値下げに分かれた。

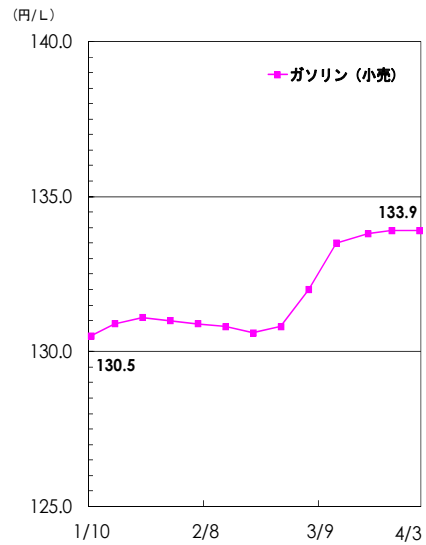
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/26 ~ 4/1	3,508 ▼ -130	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.9 ▼ -1.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/1	12,519 ▼ -341	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/3	52.23 ▲ 3.03	▲ 17.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/3	50.24 ▲ 2.51	▲ 14.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	55.91 ▲ 0.49	▲ 23.74
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,907 ▲ 505	▲ 17,015
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.47 ▼ -0.44	▼ -0.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/3	112.27 ▼ -0.83	▲ 0.20



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/26 ~ 4/1	1,099 ▲ 82	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	994 ▲ 32	▼ -	
	輸出	"	133 ▲ 63	▲ -	
	在庫	4/1	1,693 ▼ -28	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/28 ~ 4/3	53.2 ▼ -0.1	▲ 14.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/28 ~ 4/3	50.6 ▲ 1.2	▲ 10.7
		(TOCOM/中部)	4/3	51.5 ▲ 1.8	▲ 13.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/3	133.9 ➡ 0.0	▲ 19.3	

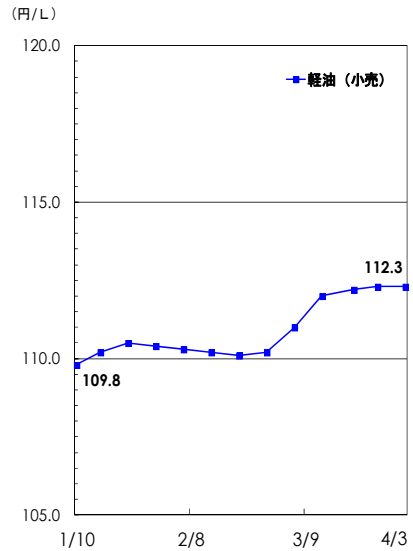
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

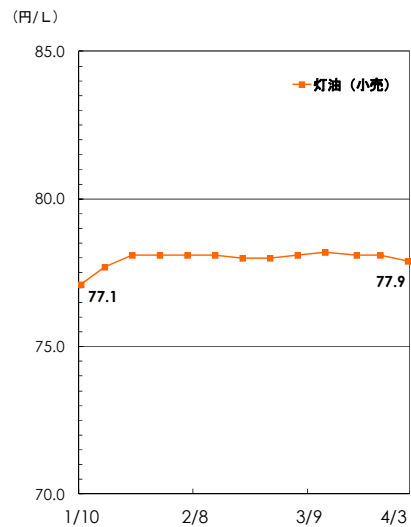
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/26 ~ 4/1	813 ▲ 115	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	629 ▲ 26	▼ -	
	輸出	"	225 ▲ 13	▼ -	
	在庫	4/1	1,438 ▼ -41	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/28 ~ 4/3	50.9 ▲ 0.2	▲ 14.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/28 ~ 4/3	46.0 ➡ 0.0	▲ 11.3
		(TOCOM/中部)	4/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/3	112.3 ➡ 0.0	▲ 14.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/26 ~ 4/1	340 ▼ -37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	412 ▼ -53	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	4/1	1,053 ▼ -72	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/28 ~ 4/3	50.4 ▲ 0.7	▲ 13.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/28 ~ 4/3	45.7 ▲ 1.1	▲ 10.9
		(TOCOM/中部)	4/3	46.8 ▲ 2.1	▲ 12.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/3	77.9 ▼ -0.2	▲ 16.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月5日のNYMEX市場WTI原油は、北海のパザード油田の生産が保守点検のため停止したとの報道で強含んだが、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が減少との事前予想(40万バレル減)に反し、160万バレル増となったことから、伸び率は大きく圧縮され、一時は前日比マイナスとなった。結局5月限の終値は前日比0.12ドル高の51.15ドル、6月限の終値は前日比0.09ドル高の51.60ドルだった。

EIAによると、4月3日時点のガソリンの小売価格は前週比4.5セント値上がりの1ガロン2.360ドル(69.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.4セント値上がりの2.556ドル(75.7円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に4週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月26日～4月1日に休止したトッパー能力は36.4万バレル/日で、前週に対して1.6万バレル/日の増加(全処理能力は371.2万バレル/日)。

原油処理量は350.8万klと、前週に比べ13.0万kl減少。前年に対しては26.2万klの減少。トッパー稼働率は84.9%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては2.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/8.1%増、ジェット/3.4%増、灯油/9.8%減、軽油/16.5%増、A重油/5.9%増、C重油/14.3%減。今週のC重油の輸入は1.7万kl(前週比2.1万kl減)。軽油の輸出は22.5万kl(前週比1.3万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油のみが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は99.4万kl(対前週3.3%増)と3週連続で前週比で増加、2週振りに前年比で減少となり、9週連続で100万klを下回った。

ジェット10.7万kl(対前週31.3%減)、灯油41.2万kl(対前週11.5%減)、軽油62.9万kl(対前週4.2%増)、A重油24.3万kl(対前週5.5%減)、C重油24.4万kl(対前週22.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/26 ~ 4/1)	前週 (3/19 ~ 3/25)	前週比	
ガソリン	994	962	▲ 32	(3%)
ジェット燃料	107	155	▼ -48	(-31%)
灯油	412	465	▼ -53	(-11%)
軽油	629	603	▲ 26	(4%)
A重油	243	257	▼ -14	(-5%)
C重油	244	315	▼ -71	(-23%)
合計	2,629	2,757	▼ -128	(-5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月1日時点の在庫は、A重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは169.3万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては1.0万kl多い。

灯油は105.3万kl、前週差7.2万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

軽油は143.8万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては11.6万kl多い。

A重油は77.1万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては0.1万kl多い。

C重油は193.2万kl、前週差5.8万kl減。前年に対しては3.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/1)	前週 (3/25)	前週比	
ガソリン	1,693	1,721	▼ -28	(-2%)
ジェット燃料	900	932	▼ -32	(-3%)
灯油	1,053	1,125	▼ -72	(-6%)
軽油	1,438	1,479	▼ -41	(-3%)
A重油	771	763	▲ 8	(1%)
C重油	1,932	1,990	▼ -58	(-3%)
合計	7,787	8,010	▼ -223	(-2.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月28日から4月3日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高だったが、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン106～107円台、軽油50円台、灯油50～51円台で横ばいであった。海上スポット価格は、ガソリン103～105円台、軽油50円台、灯油45～47円台、先物価格はガソリン103～105円台、軽油46円台、灯油44～46円台で、軽油を除きこちらは値下がりである。元売の卸価格はほとんどが横ばいだった。

JXTGエネルギーは4月6日、4月8日以降の外販スポット価格を、ガソリンのみを1.0円値上げし、他の油種は据え置く旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がり、製品スポット市況も原油価格の値上がりを受け、先物を中心に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、9週続けて100万klを下まわった。

4月第2週(4月6日～4月12日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月28日～4月3日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.7円、軽油は0.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円、灯油は1.4円、軽油は0.6円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.2円、灯油が1.1円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がり、為替は円高でこれを一部相殺したが、原油コストは値上がりとなった。

4月第2週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから1.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/28 ~ 4/3)	前週 (3/21 ~ 3/27)	前週比
スポット価格	レギュラー	53.2	53.3	▼ -0.1
	灯油	50.4	49.7	▲ 0.7
	軽油	50.9	50.7	▲ 0.2
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (3/28 ~ 4/3)	前週 (3/21 ~ 3/27)	前週比
先物価格	レギュラー	50.6	49.4	▲ 1.2
	灯油	45.7	44.6	▲ 1.1
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/28~4/3実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.1	▲ 1.2	▲ 0.5
灯油	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 0.9
軽油	▲ 0.2	➡ 0.0	▲ 0.1
A重油	➡ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの133.9円、軽油も前週比横ばいの112.3円、灯油は前週比0.2円値下がりの77.9円だった。ガソリン、軽油は6週振りに値上がり止まり、灯油は2週振りの値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは13道府県、横ばいは14県、値下がり20道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県128.6円(前週比0.3円安)、次が新潟県と千葉県130.8円(各々同0.3円安、0.1円高)だった。最高値は鹿児島県の141.5円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比1.1円高の

沖縄県(140.6円)、最も値下がりした県は同1.3円安の奈良県(131.7円)、横ばいが鹿児島県・長崎県・福井県・岩手県・香川県・岡山県・神奈川県等の14県だった。

原油コストは値下がりし、一部元売りは卸価格を値下げしたが、小売価格への転嫁が遅れたところもあり、6週振りにガソリン小売価格は値上がり止まった。原油価格は値上がり、為替レートは円高となり、原油コストは値上がりし、今週の元売会社の卸価格は、1.0円の値下げから1.0円の値上げに分れた。次週(4月10日)のガソリンと灯油の小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (4/3)	前週 (3/27)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	133.9	133.9	➡ 0.0	08/8/4 185.1
	灯油	77.9	78.1	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	112.3	112.3	➡ 0.0	08/8/4 167.4

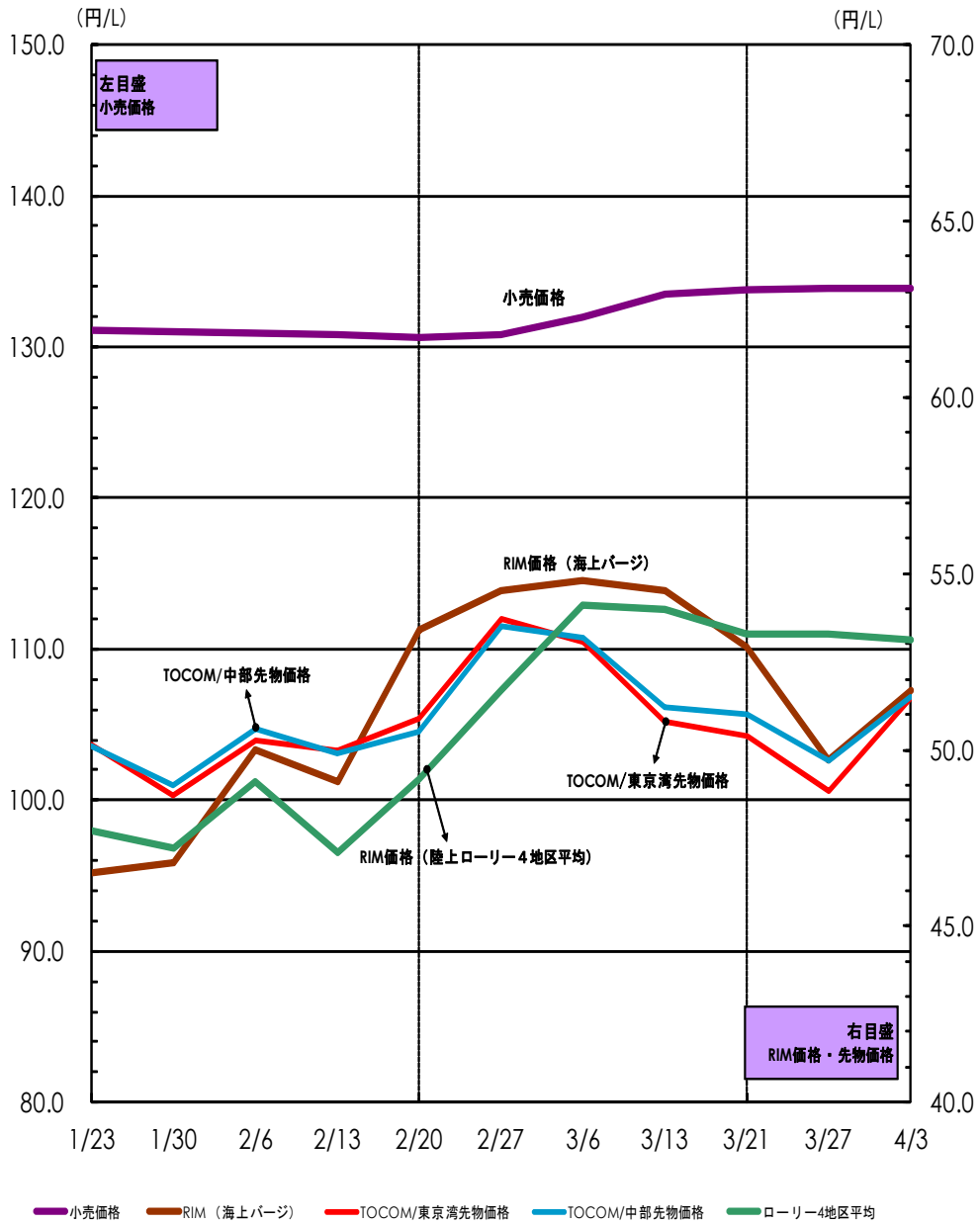
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/1/23 ~ 2017/4/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第2号)の公表は、4/14(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。